



# さつまいもの病害対策のポイント③

【9月～10月の管理作業】

県農政部農産園芸課



## 【残さ対策】 基腐病菌は収穫残さで越冬するので残さ処理が重要！

◎ 収穫後の残さは、できるだけほ場の外に持ち出しましょう。  
持ち出せなかった残さは、土壌中の微生物による分解を進めるため、収穫直後の地温が高い時期にロータリーで複数回耕うんしましょう。

※ 残さのすき込みは、①地温が20℃以上確保できる時期、  
②残さが十分に水分を含んでいる収穫直後が効果的です。

※ 地温の低い12月から3月は、土壌中の微生物の働きが少ないため、石灰窒素などの腐熟促進剤を投入しても、残さの分解はほとんど進みません。



## 令和8年産の健全苗確保に向けて準備をしましょう！！

### 【育苗床の準備】 必ず殺菌効果のある土壌消毒剤で消毒を行う！

◎ 消毒効果を高めるため、残さの除去、地温や土壌水分の確保を行い、土壌混和後はビニールで被覆しましょう。

#### 【バスアミド微粒剤の使用基準】

- ・使用方法：30kg/10aを均一に散布して土壌と混和
- ・使用時期：植付21日前まで



### 【種いもの準備】 貯蔵前処理と貯蔵中の温度管理が重要！

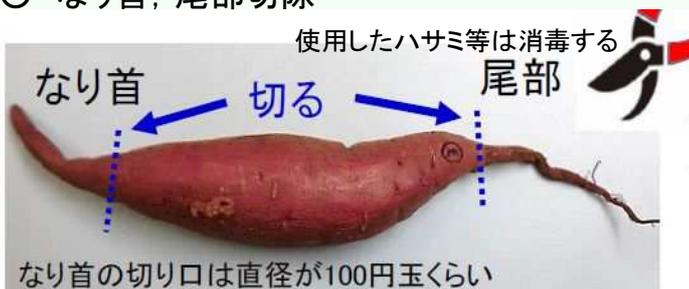
◎ 種いものは、病気が発生していないほ場から採取し、丁寧に取り扱いましょう。

◎ 貯蔵中の腐敗を防止するため、必ず貯蔵前処理を行いましょう。



○ 水洗・選別  
水洗して表皮が変色しているものは除去

○ なり首、尾部切除



○ 蒸熱消毒  
蒸熱処理装置を利用して消毒を行う。  
※11月までの寒くない時期



○ 薬剤消毒  
なり首、尾部切除後、速やかにトップジンM水和剤200倍液に30分間浸漬し風乾  
※10℃以下の低温にさらさない

○ 貯蔵  
13℃～15℃を保ち、低温にさらさない。